



主な内容

新年のご挨拶

- 特集—— 総合周産期母子医療センター  
トピックス—— 附属病院と内丸メディカルセンターで  
クリスマスのサプライズイベントが行われました

募金状況報告

- フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.109  
「心理的安全性」

表紙写真：附属病院エスカレーターホールのクリスマスツリーとサンタさん  
(関連記事P.10)

# 新年のご挨拶



理事長 小川 彰

明けましておめでとうございます。

昨年末から今年にかけ、コロナ禍八波の影響で大変な年末年始だったと存じます。大学病院にもクラスターが発生し今まで経験のない状況になっています。

さて、昨年、1月、2月の2回にわたり県、盛岡市、矢巾町と共に国土交通省に出向き中山副大臣（当時）にお会いし、大臣、副大臣、政務官へ盛岡南道路事業化に向けた要望書をお渡ししてきました。中山副大臣の義兄様が岩手医科大学出身で開業医をされている（医29期）とのことで、話が弾みました。

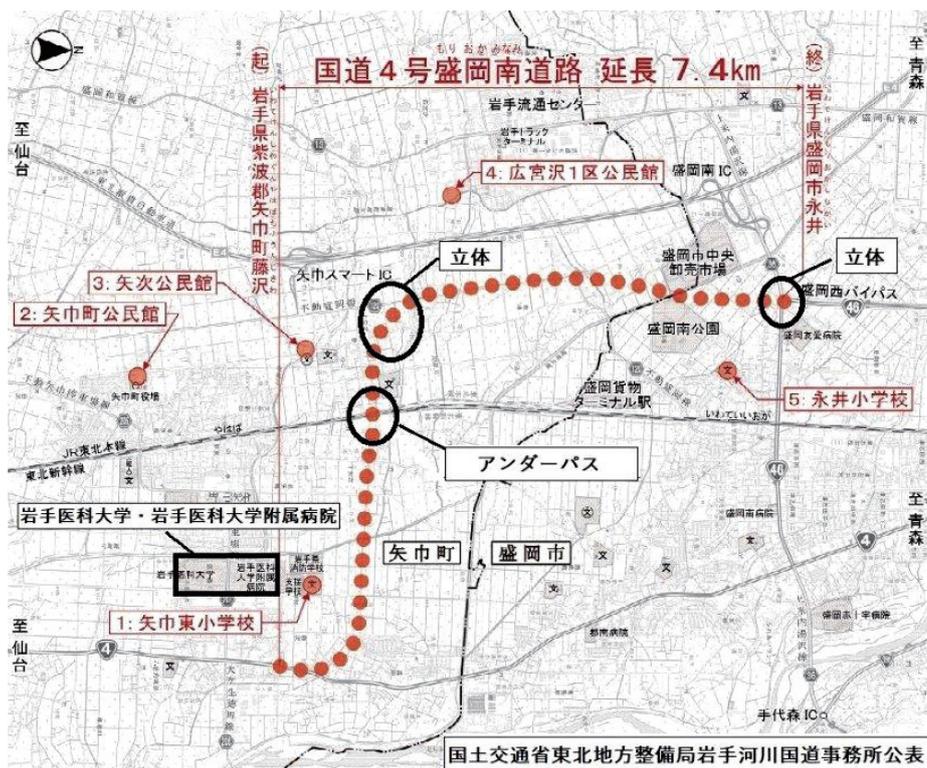
その後、同事業に対し、初めて予算が付き、ついに実現に向けて動き出しました。昨年は初年度ということで、8月に住民説明会が行われ、次いで測量調査が行われています。昨年12月には、鈴木俊一財務大臣にもご出席頂き、国土交通省東北地方整備局、局長、道路部長、道路調査官はじめ整備局首脳部と意見交換を行いました。

国土交通省東北地方整備局首脳部からは、来年度の予算措置について言及がありました。国土交通省の認識としては「盛岡南道路」は①国道4号、国道46号の交通混在の解消②円滑な物流確保による地域産業の活性化③三次救急医療機関への円滑な搬送経路の確保による地域の救急医療の支援、と目的を明確化しています。今後、詳細な設計の確定、用地買収に進んでいくものと思われます。

道路の概略としましては、南インターから都南大橋との交差点（西バイパス南口）は、立体交差になる予定です。その南は、盛岡中央卸売市場の裏、盛岡南

公園（本年4月新野球場がオープン予定）の間を抜け一度現在の農免道（不動盛岡線）に出て、矢巾スマートインターの北（現在ファミリーマートがある場所付近）を立体で90度左に曲がり、矢巾北中の南を真っ直ぐ東に抜けて、東北本線と新幹線と交わる場所はアンダーパスになります。その後東に真っすぐ進みますと本学敷地に隣接する矢巾東小学校の北に位置するタンクが2基並んでいる矢巾町上水道施設（東部配水場）のすぐ北を通り、矢巾町藤沢で国道4号線と合流する計画になっています。道路規格は片側2車線、4車線の高規格道路です。

完成すれば、矢巾キャンパスから「盛岡駅」、「内丸」へのアクセスの利便性は格段に向上することになります。用地買収には一定の期間を要すると思われるので、現時点で完成年度を予測することはできませんが、これまでのところ反対の声は聞こえてきていませんので1日も早い完成が待たれます。



国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所公表



## 学 長 祖父江 憲治

明けましておめでとうございます。令和5年の新たな幕開けを、皆様方におかれましては御家族共々健やかな新年を迎えられましたことと、お慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス流行、ロシアのウクライナ侵攻、元首相の暗殺に端を発した教団問題など、多難な一年でした。4年目に入った新型コロナウイルス感染症は、依然猛威を振るっております。昨年末からの第八波の襲来で、感染者が急増し正確な実態把握が困難で、死者数も増加しています。変異株もオミクロン株からXBB.1.5へと変異し、感染力と脱免疫原性は従来以上に強力とされています。さらに、インフルエンザの同時流行も懸念されていますが、両感染症ともにワクチンと「手洗い・うがい・マスク着用」という身近な日常習慣しか予防法はありません。当面は感染防御の基本に立ち返り、ワクチンと身近な日常習慣の獲得から維持、さらに緊張感を持った生活を送るべく心掛ける必要があります。

本学では附属病院敷地内にコロナ感染症に対応するため、県の支援で「感染症対策センター」（感染防御のため附属病院とは別棟として運営）を昨年4月より開院し、重症コロナ感染症の治療を行い、連日ほぼ満床という状態です。将来的には、コロナ感染症以外の未知新興感染症に向けても対応した施設となる予定です。

コロナ禍で、医・歯・薬・看護学部の学生教育につきましては、対面講義を基本とし、必要に応じてWebによるオンライン講義も併用しております。実習においても、全学部とも予定通り遂行し、コロナ蔓延で中止せざるを得ない場合のみ代替実習を行うなど、学生諸君の学習に極力支障を来さないよう対処しております。学生諸君にはもうしばらく、不自由な生活を強いる時があるかも知れませんが、これも一つの経験とポジティブに捉えて下さい。また教職員の皆様方にもご尽力を賜っておりますが、引き続きご協力下さいますようお願い申し上げます。

昨春の医・歯・薬・看護学部の国家試験は概ね好成績でした。これは学生諸君の頑張りや教職員の皆様の大変なご苦勞により成し得たもので、皆様方の熱い情熱に感謝しております。間もなく、今春の国家試験シーズンに入ります。より多くの学生諸君が関門を突破し、医療人として最前線で活躍してくれる事を願っております。

附属病院が移転して3年数カ月が経過し、附属病院と内丸メディカルセンターが相互補完して役割分担を果たす2病院体制が、少しずつ形を成し、県民の皆様にも認知されつつあります。しかしながらまだ端緒についた所で、現状はまだまだ充分とは言えず、新たな仕掛けを模索しつつ、両病院が岩手・北東北・東北の中核医療拠点として役割を果たすべく、なお一層の発展に向け努力してまいります。殊に、内丸メディカルセンターの新改築は喫緊の課題であると考えております。

今後の本学の発展にとって重要な課題は人造りです。これ迄に何度も申し上げてきたことですが、本学の将来を担う人造りです。各講座・研究部門で優秀な教育スタッフが充実してきており、教育・診療・研究での活躍が期待されます。これらスタッフは、学部教育から卒業後教育までを担当しています。殊に、医学部と歯学部では医師・歯科医師の卒業後教育において、いかに多くの若い医師・歯科医師が集うかが、大学の力を左右する現実的な問題となっています。全国の臨床研修医・歯科研修医と専門研修医希望者に対して、魅力ある職場環境整備と各医局・講座さらに大学の情報発信が重要と考えています。本学のみならず他大学からも多くの医師・歯科医師を始めとした医療人が集まってくれる、輝く大学造りに努めてまいりましょう。

昨年2月から始まったロシアによるウクライナ侵攻は、全世界に暗い影を落としています。映像で戦争の悲惨さは伝わってきますが、日本に居ますとまだまだ現実感伝わってこないように思われます。しかし、同様の事が、ロシア、北朝鮮、中国から直接攻撃を受けることも現実味を帯びてきました。ただ単に恐怖心を煽るだけのプロパガンダではなく、現実を見据えて、我々がどう判断し、どの方向へ向かうかが問われています。同じことが、少子化・人口減少・コロナを含む新興感染症・温暖化などなど、身の回りでも問題は山積しております。新年にあたり、我々は過去に拘泥することなく、新たな視点で対処する必要性を感じます。今日の一日は、明日への新たな一日のためにあります。本学の皆様方の心に希望の灯が輝き続けますよう、新年のご挨拶とさせていただきます。

# 特集



## 総合周産期母子医療センター

岩手県の周産期医療を20年以上も担ってきた「総合周産期母子医療センター」。本号では当センターの診療体制や取り組みについて紹介します。

### 概要

総合周産期母子医療センターは、県全域を対象としてリスクの高い妊婦に対する医療や新生児医療を提供する施設です。2001年4月1日、本学附属病院に総合周産期母子医療センターが開設され、岩手県では本学附属病院1箇所のみに設置されています。

当センターの役割は、地域周産期母子医療センター（県立中央病院、盛岡赤十字病院、県立二戸病院、県立久慈病院、県立中部病院、北上済生会病院、県立磐井病院、県立宮古病院、県立大船渡病院）と搬送コーディネーターや遠隔画像システムにて連携を取り、県全域で健全な周産期診療機能を保つことにあります。当院で行う周産期母子医療としては、合併症妊娠（重症妊娠高血圧症候群、前置癒着胎盤等）、胎児異常など母体または児におけるリスクの高い妊婦に対する医療、高度な新生児医療があります。必要に応じて当該施設の関係診療科または他の施設と連携して産科合併症以外の合併症（精神疾患、脳血管疾患、膠原病、心疾患、敗血症、外傷など）を有する母体にも対応しています。



### スタッフ



## 母子・胎児集中治療室 (MFICU)

高度な周産期医療を遂行するために、産科・小児科医師と医療スタッフが協力体制を築いています。周産期部門では後方病室を含めて33床の病床を運営し、地域周産期センターや診療所と医療情報を共有し、搬送が必要な妊婦さんについては、コーディネーターが搬送を調整しています。

### ■ エコー検査 ……………

総合周産期母子医療センターは、北東北各地から胎児心疾患が紹介されるため胎児診断から新生児治療方針立案のため高解像度機能を持つ最新超音波機器を導入しています。また、新生児治療を必要と予測した妊婦さんへ胎児期のエコー画像を渡し、妊娠期を乗り切る励みになればと思いきずと3次元画像にも力が入ります。



3次元超音波画像  
：胎児の顔



### ■ 分娩 (帝王切開) ……………

2013年8月からの総分娩数は4,043例(経膈分娩2,484例、帝王切開1,559例)です。2019年から開始した超緊急帝王切開は(16例、平均4例/年)、コール後、速やかにスタッフが手術室に待機し、直接、救急隊が手術室へ妊婦を搬送し帝王切開を施行するため、児は到着から5～15分以内で出生します。このシステムによって常位胎盤早期剥離に併発する子宮内胎児死亡や重症産科DIC(Disseminated Intravascular Coagulation: 播種性血管内凝固)が回避可能となりました。



### ■ 搬送コーディネーター ……

搬送コーディネートシステムは、24時間体制で一次施設、地域周産期医療センター(県立中央病院、盛岡赤十字病院、県立二戸病院、県立久慈病院、県立中部病院、済生会北上病院、県立磐井病院、県立宮古病院、県立大船渡病院)と連絡をとり岩手県周産期医療を円滑に保つことを目的としたシステムです。



### ■ 看護師長から ……………

当院に紹介・搬送されてくる妊産婦は、異常妊娠や母体合併症、胎児異常などのリスクから、長期入院を強いられることも多く、心身ともに危機的な状況になることもあります。総合周産期母子医療センターに勤務する助産師は、安全でやさしさ・思いやりを持ち、妊産婦に寄り添った個別性のある看護、意思決定支援に努めています。また、危機的出血やGradeA(超緊急帝王切開)等、医師をはじめ多職種と連携したシミュレーションを行い緊急時の対応に備えています。

(西7階B病棟(MFICU) 武田 リカ 看護師長)



### ■ 副センター長から ……………



小山 理恵 副センター長  
(産婦人科学講座 特任教授)

MFICUでは、ハイリスク妊婦に対し総合的な周産期医療を行うとともに、産科合併症以外の合併症(精神疾患、脳血管疾患、膠原病、心疾患、敗血症、外傷等)を有する母体疾患に対応しています。特に、出生前画像診断、妊娠28週未満の超早産治療、放射線科を主体とした産科出血に対する子宮動脈塞栓術、手術室部門の協力のもと超緊急帝王切開術は母子・胎児集中治療の要です。また、母子支援のため、精神神経科、医療ソーシャルワーカー、自治体と連携し周産期メンタルヘルスケア会議を開催し、妊娠中から子育てまで支援を繋げています。周産期医療のみならず子育て支援へ重視していることが、結果として岩手県の少子化対策の一助になれば幸いです。

## 新生児集中治療室 (NICU) / 新生児治療回復室 (GCU)

N I C U 24 床と G C U 14 床が備えられ、産婦人科医と小児科医、看護師・助産師、コメディカルがチームを組み、専門的な医療と看護を 24 時間体制で「ファミリーセンタードケア」の理念に基づいた医療・看護を行っています。

### ■ 新生児集中治療室 (NICU) .....



「出生は人生で一番危険にさらされる瞬間」といっても過言ではありません。元気に生まれることは当たり前のようでいて奇跡的なことです。N I C U には早産児だけでなく、新生児仮死、先天性心疾患、消化器疾患、染色体異常など、重症な病気をもった新生児が年間 150 人前後入院します。眼科、小児外科、心臓血管外科、脳神経外科などの関連診療科と連携しながら、365 日 24 時間体制で、高度新生児医療を提供しています。

### ■ 新生児治療回復室 (GCU) .....

急性期治療を終えた児は、G C U に転棟し退院準備をします。育児が困難である家庭や長期フォローが必要である児に対しては、多職種で会議を行い、退院を支援しています。入院期間が長期となる重症児は増加傾向です。後遺症なき生存を目指すのはもちろんですが、生まれてすぐ離れてしまう赤ちゃんのご家族の不安を軽減し、良好な家族関係をつくれるよう、「ファミリーセンタードケア」に基づいた医療と看護を行っています。



### ■ オンライン面会 .....



新生児医療において「面会は愛着形成と家族関係構築に必要な治療の一環」で、新型コロナウイルスによる面会制限は家族関係に大きな影響を残すかもしれません。面会制限中でも我が子の様子を見たいという家族の声を受け、N I C U ・ G C U では 2021 年 6 月からオンラインでの面会を行っています。実施した家族から「顔がみれて安心した」「気持ちが楽になった」「精神的支えになった」という感想をいただいています。

### ■ 副センター長から .....

新生児医療の発展は、当大学で世界に先駆けて行われた呼吸窮迫症候群のサーファクタント補充療法から始まりました。近年救命された早産児が、臓器未熟性によって生活習慣病ハイリスク群であることが判明し、その予防や発達医学研究が注目されています。少子化の時代だからこそ、ひとりひとりの新生児を大切に、ご家族の気持ちに寄り添いながら、私たち総合周産期母子医療センターのメンバーは日々奮闘しています。新生児ドクターヘリも本格稼働し、県内各地の救命率向上が期待されます。コロナ禍で導入したオンライン面会は、広い県土の当県ではコロナ終息後も遠方のために頻回にお越しいただけないご家族にとって大きな励ましになることでしょう。



赤坂 真奈美 副センター長  
(小児科学講座 教授)



馬場 長 センター長  
(産婦人科学講座 教授)

### Q 矢巾附属病院移転後にセンターの体制は変わりましたか？

センターの役割は当院の診療を遂行することに加えて、搬送コーディネーターが中心となって岩手県全体の周産期医療を調整し、県全域で健全な周産期診療機能を保つことにあります。当院は新しい施設となり、高規格機器をしっかりと揃えられたことで、医療圏全体の若手を対象とした先進的な周産期医療の教育にも力を入れられるようになりました。定期的に県立病院の先生方が当院の診療を見に来たり情報共有をしたり、移転してからセンターの役割を果たしやすくなったと思います。

設備の面ではNICUとMFICU病棟が近くなり、スタッフの連携が取りやすくなりました。また、当院で本格的に行っているGrade A（超緊急帝王切開）ですが、緊急用エレベーターが病棟の脇に設置されたことで、搬送時間が短縮されスムーズに手術に取り掛かれるようになりました。

### Q センターで力を入れていることはありますか？

当院に紹介・搬送されてくる妊産婦は、異常妊娠や母体合併症、胎児異常などのリスクを有しています。高解像度最新超音波機器を用いて胎児診断を行うことで、新生児治療の方針を立てています。

出生前から支援体制を整えることで、両親のメンタルヘルスケアも時間をかけて行うことができます。産後鬱や社会的支援が必要な方に対しては精神科と小児科、医療ソーシャルワーカーと協力して支援していくことで患者と家族の不安を取り除くことができるよう努めています。日本全体で求められている周産期チームケア医療の実現が岩手でも可能となるよう、これからもセンターで力を入れていきます。

### Q 今年から本格稼働した新生児ドクターヘリについて教えてください。

NICUの治療は専門性が高く、どの病院でも同じレベルで遂行できるわけではありません。岩手県では当院でしか遂行できない治療も多々あります。ドクターヘリが本格稼働したことで、各病院で治療することが難しい場合は当院のNICU専門医が連れて帰ってくる。この体制が構築されたことで、当院で育てた専門医を地域に分散させるのではなく、必要時に出張して高度なNICU治療を圏域全体で遂行する体制を維持できるようになりました。今後、助けられる児の数がさらに増えると期待されます。

### Q 周産期医療におけるチーム医療の位置付けは？

1人のスーパードクターが何とかする時代ではありません。1人が3人を育て、その3人が5人を育て、そうしてどんどんチームが大きくなり、医療の幅が広がっていきます。これは働き方改革にも繋がります。周産期医療に関わる産婦人科医、新生児科医、精神科医、看護師、助産師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー等、全ての職種が協力して一つの医療に取り組むことでセンターが成り立っています。

### Q 産婦人科医の魅力や先生が普段心掛けていることを教えてください。

産婦人科はたくさんの診療科の中で唯一「人」が増える科です。病院には病気の方が来ますが、お産は病気ではありませんので元気な方が元気な子を産む、といった他にはない特殊な診療科です。生命の誕生には言葉で表せない嬉しさがありますし、とてもやりがいを感じます。

私は恩師から「言い訳を言わない」「嘘はつかない」という言葉を叩きこまれました。センターのスタッフにも診療でこの2つは守ってほしいので、守れるような診療体制作りを心掛けています。

### Q センターの今後の展望を教えてください。

周産期の研究はこれまで赤ちゃんを助けるためにどの薬を使うのが効果的か、という内容がほとんどでした。これからは、より良い治療に結び付けられるような新しい研究を始め、全国や世界に発信していきたいと考えています。その為にも、若い医師に産婦人科・小児科の魅力を知ってもらい興味を持ってもらいたいです。産婦人科・小児科の垣根を超えた診療・研究に取り組んでいきたいです。



インタビューに答える馬場センター長

## 高校生アスリートのためのスポーツ メディカルセミナーが開催されました

10月23日(日)、矢巾キャンパス東講義実習棟において、岩手県体育協会主催の「高校生アスリートのためのスポーツメディカルセミナー」(本学薬学部共催)が開催され、創剤学分野の杉山助教が「プロテインとサプリメントの有効活用について ～高校生アスリートが知るべきアンチ・ドーピング～」というタイトルで講演しました。杉山助教は、JADA 公認スポーツファーマシストの資格を有しており、意図しないドーピング違反を防ぐため、服用するくすりだけでなくプロテインやサプリメントにおいても注意すべき点を解説しました。また、サプリメントの服用で急激なパフォーマンス向上はありえず、あくまで食事の補助とすることが重要であることを示しました。

このセミナーには定員50名のところ、70名を超える高校生アスリートが参加し、熱心に聴講していました。なお、本セミナーは10月24日付の岩手日報でも紹介されました。



プロテインとサプリメントの有効活用について講演する杉山助教

## 岩手医科大学 DPAT が岩手県総合防災訓練 に参加し本学で研修会を実施しました

10月29日(土)、岩手医科大学 DPAT (岩手 DPAT 統括の神経精神科学講座大塚教授・三條克巳講師他)が気仙地域での岩手県総合防災訓練に活動拠点本部の設置運営訓練、遺体安置所でのリエゾン派遣訓練、避難所でのリエゾン派遣訓練に参加しました。

11月23日(水)には岩手県主催の岩手 DPAT オンライン研修が行われました。当日は、岩手県地域防災計画等の体制や救急・災害医学講座の眞瀬教授が大規模災害時の医療活動について講義し、防災訓練動画や視覚教材をもとにした災害支援の実践研修が行われました。



研修会を担当した岩手医科大学 DPAT

## Student Doctor 認定式が挙行されました

11月4日(金)、大堀記念講堂において、医学部第4学年118名を対象とした Student Doctor 認定式が挙行されました。臨床実習において Student Doctor として臨床の場に第一歩を踏み出す学生に、医師としての心構えをし医療人の一員となることの責任感や使命感を再認識する節目の式典です。

式では、祖父江学長、佐々木医学部長、小笠原病院長から激励のことばがありました。学生を代表して伊藤大成さんは「附属病院の理念である「誠の精神に基づく、誠の医療の実践」をここに誓います」と力強く宣誓しました。

Student Doctor に認定された学生たちは、これから始まる臨床実習に向けて医師の道を歩む決意を新たにしました。



代表学生宣誓

## ボイラー安全祈願祭が行われました

11月9日(水)、エネルギーセンターにおいて、ボイラー安全祈願祭が行われ、理事長をはじめ本学関係者約10名が出席しました。

当日、神官による神事では、祝詞奏上、清祓の後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

なお、令和4年度のボイラーデースローガンは「点検で 守る安全 防ぐ事故」です。



神官による清祓い

## 株式会社マツキヨココカラ&カンパニー 奨学金授与式が挙行されました

11月14日(月)、東研究棟1階会議室において、株式会社マツキヨココカラ&カンパニーから本学薬学部学生への地域に貢献できる優秀な薬剤師を育成することを目的とした、奨学金授与式が挙行されました。

式では、薬学部5学年菅野真生さん、斉藤春斗さんに対し奨学金が授与され、株式会社マツキヨココカラ&カンパニーの小部真吾取締役と同社に入社した本学部卒業生で奨学金受給者であった高橋健太さんから激励のことが送られました。学生からは、奨学金受給に対する感謝の気持ちと奨学生としての決意が述べられました。



左から：河野薬学部長、菅野さん、斉藤さん、川口栄取締役、  
小部取締役

## 災害看護研修会が行われました

11月21日(月)、災害時地域医療支援教育センターにおいて、看護部災害看護委員会が主催している令和4年度災害看護研修会が行われました。ラダーレベルⅢ以上の看護師を対象に、被災者・援助者支援の理解向上を目的として、岩手県こころのケアセンター、神経精神科学講座及び災害・地域精神医学講座の協力のもと研修が行われました。

当日は、DPAT(災害派遣精神医療チーム)の実際の活動や災害時訓練等の動画記録をもとにした災害支援の実践的な講義、ゲートキーパー養成研修用DVDの被災地対応編をもとにした演習が行われました。クリックシステムを用いた双方向性学習により、参加者はこころのケアについて理解を深めました。



災害時地域医療支援教育センターで行われた研修会

## いわて東北メディカル・メガバンク機構 学内報告会が行われました

12月2日(金)、第8回いわて東北メディカル・メガバンク機構学内報告会がオンラインにて行われ、教職員・医学部大学院生あわせて39名が参加しました。



祖父江学長開会挨拶

### 事業概要報告 「第三段階の進捗状況と今後の展開」

佐々木 真理 機構長



### 研究成果報告 「地域住民コホート調査 ～詳細三次調査の進捗状況とこれまでの成果～」

丹野 高三 部門長  
(臨床研究・疫学研究部門)



### 研究成果報告 「分譲に向けたゲノムオミックスデータの 整備と今後の研究シーズ ～学内共同研究の推進に向けて～」

清水 厚志 副機構長  
部門長  
(生体情報解析部門)



### 閉会挨拶

平 英一 医歯薬総合研究所長



当日は佐々木機構長はじめ各部門長から、事業の進捗状況や研究成果についての報告が行われました。同機構では、個別化医療などの次世代医療に向け、遺伝子回付検討やバイオバンク・コホート連携などの取り組みを推進し、今後、中核的取組を発展させていくとともに、他事業等との連携をさらに深め、日本のゲノム医療研究を支える開かれた基盤としてさらなる発展を目指します。

## 岩手県立花巻農業高校から門松が贈られました

12月21日（水）、岩手県立花巻農業高校環境科学科の生徒から、昨年に続き、附属病院に門松が贈られました。

花巻農業高校環境科学科では、授業で造園技術を学び、毎年地域貢献の一環として被災地の自治体や駅などに手作りの門松を贈っています。コロナ禍において最前線で尽力されている医療従事者の方々への感謝の気持ちとコロナ感染症の終息を祈念して、昨年に続き本学附属病院に寄贈されました。

小笠原病院長は「寄贈の趣旨に添うよう医療従事者及び来院者にご覧いただけるよう正面入り口に設置する。引き続き、県民の医療を守り質の高い医療を提供していく」と感謝状を贈りました。環境科学科2年佐藤苺依さんからは「医療従事者の方々への感謝の気持ちを込めて作った。お正月の気分を味わってもらい元気になってほしい」と寄贈の趣旨が述べられました。



門松を完成させる小笠原病院長と代表生徒



代表生徒挨拶



花巻農業高校生徒と附属病院スタッフ

## 附属病院と附属内丸メディカルセンターでクリスマスのサプライズイベントが行われました

12月22日（木）、附属病院と附属内丸メディカルセンターにおいて、クリスマスのサプライズイベント「サンタが附属病院・附属内丸メディカルセンターにやってきました！」が行われました。このイベントは、日々不安を抱いている人々に安心感とワクワク感をプレゼントすることを目的に開催されています。

附属病院と附属内丸メディカルセンターに突如現れたサンタクロースは、大きなプレゼント袋から何やら物を取り出すと患者さん・職員にプレゼントし始めました。プレゼントの中身は、看護部が一つひとつに手書きをしたメッセージシールの貼られた個別包装のマスクでした。

マスクを受け取った方々は、サンタクロースの登場に驚きながらも笑顔を見せ、クリスマス気分を味わったようでした。



附属病院1階エントランス



附属内丸メディカルセンター 外来棟2階



プレゼント袋の中身

# 新任教授の紹介

令和4年11月1日就任

薬科学講座構造生物薬学分野

**阪本 泰光** (さかもと やすみつ)

昭和46年12月13日  
熊本県熊本市出身



## 研究テーマ

タンパク質や核酸などの生体高分子の立体構造に基づく、生命現象の解明および創薬研究

## 主な著者論文

- ・多剤耐性菌 *Stenotrophomonas maltophilia* DPP7 の S2 サブサイトにおける基質認識機構の解明 Sci. Rep. 11, 7929 (2021)
- ・一部の糖非発酵性グラム陰性菌に特有な S46 DPP に対する低分子阻害剤の発見 Sci. Rep. 9, 13587 (2019)
- ・ヒト DPP8/9 類縁酵素の基質認識機構の解明 Sci. Rep. 8, 2714 (2018)

## 趣味

旅行、特に温泉

## 教職員への自己PR

この度、薬学部薬科学講座構造生物薬学分野の教授を拝命致しました。昨今、AIやDXがわたしたちの暮らしを急速に変革しつつあり、薬剤師の業務も大きく変わろうとしています。今後は、これまで以上に自らが世の中に何を貢献できるのかを考え、そのために必要なことを実践できる人材が必要とされます。私は、こうした社会変化に対応し、社会に貢献する薬剤師の育成に尽力いたします。構造生物学は、タンパク質や核酸などの生体高分子の立体構造に基づく薬剤設計(SBDD)や生命現象の解明に欠かせない研究で、抗SARS-CoV-2薬開発などの迅速な開発に大きく貢献しています。今後も構造生物学研究をベースとして、人々の健康に貢献する研究を進めていきます。

## 主な経歴

平成6年3月 日本大学短期大学部応用化学科 卒業  
平成9年3月 長岡技術科学大学工学部生物機能工学課程 卒業  
平成11年3月 長岡技術科学大学大学院生物機能工学専攻修士課程 修了  
平成14年4月 昭和大学保健医療学部 助手  
平成17年9月 昭和大学大学院薬学研究科 博士(薬学)  
平成19年4月 昭和大学保健医療学部 講師  
平成20年4月 岩手医科大学薬学部構造生物薬学講座 助手  
平成21年4月 同 助教  
平成29年7月 同 准教授  
平成30年4月 岩手医科大学薬学部薬科学講座  
構造生物薬学分野 准教授  
令和4年11月 現職

令和4年11月1日就任

医療薬科学講座薬物代謝動態学分野

**幅野 涉** (はばの わたる)

昭和41年3月15日  
東京都世田谷区出身



## 研究テーマ

エピジェネティクス機構に着目した薬物代謝動態の変動要因の解明

## 主な著者論文

- ・ストレス応答経路において DNA methylation reader としての役割を果たす芳香族炭化水素受容体 AhR (Toxicology, 470, 153154, 2022)
- ・ $\beta$ -ナフトフラボンによる CYP1B1 遺伝子の発現誘導は AhR が非メチル化状態の標的配列に選択的に結合することで制御される (Exp. Ther. Med., 22, 1410, 2021)
- ・DNA メチル化模様の解析は薬物代謝酵素の発現調節における DNA メチル化の役割を明らかにする (Clin. Epigenetics., 7, 105, 2015)

## 趣味

山歩き、ジャズ鑑賞

## 教職員への自己PR

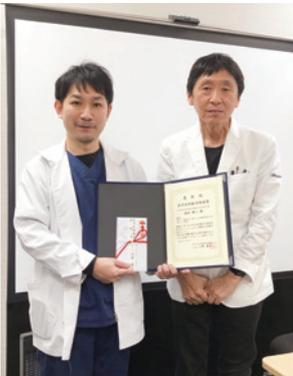
この度、薬学部医療薬科学講座薬物代謝動態学分野の教授を拝命致しました。講義や実習では「薬物動態学」という、患者に最適な薬物治療を実践するための根拠や理論の基盤となる6年制薬学部教育では必要不可欠な科目を担当しております。責任感を持って社会に貢献できる、そして岩手の将来の医療を支える人材を輩出することを使命として、岩手医大の発展に尽くしたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 主な経歴

平成元年3月 東京理科大学薬学部薬学科 卒業  
平成3年3月 東京理科大学大学院薬学研究科 修了  
平成5年12月 岩手医科大学臨床病理部門 研究員  
平成12年11月 岩手医科大学共同研究部門 DNA 解析室 助手  
平成19年4月 岩手医科大学薬学部医療薬科学講座  
薬物代謝動態学分野 准教授  
令和4年11月 現職

## 表彰の栄誉

### 内科学講座消化器内科分野の遊佐 健二 専門研修医が 日本肝臓病学会東部会で若手症例報告奨励賞を受賞しました



遊佐専門研修医、松本教授

この度第44回日本肝臓病学会東部会の若手セッションにて「悪性リンパ腫再発時にHBVによる昏睡型急性肝不全を合併した1剖検例」を発表し若手症例報告奨励賞を受賞しました。

本症例はHBV再活性化の原因が分からず、ご家族様の同意の元、剖検を施行しましたところ、EBV陽性Diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) の再燃の所見とHBVによる劇症肝炎の所見が独立して存在していました。この所見より、EBV陽性DLBCLがHBV再活性化に寄与していた可能性を考察し発表いたしました。本邦のHBV再活性化ガイドラインでは治療終了後12か月のHBV-DNA測定を推奨していますが、EBV陽性DLBCLのような免疫老化と液性免疫不全を来し得る症例ではHBV再活性化のリスクが高いことが考えられました。

最後に、日頃よりご指導いただいている内科学講座消化器内科分野の先生方、病理解剖及びご指導いただきました病理学講座機能病態学分野教授片岡竜貴先生、助教中川涼太先生をはじめとする多くの先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

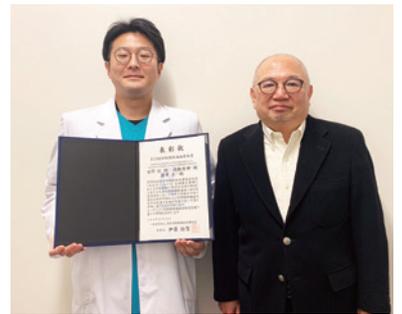
(文責：内科学講座消化器内科分野 専門研修医 遊佐 健二)

### 動物研究センターの安野 航 技術員が 日本実験動物技術者協会総会で実験動物福祉奨励賞を受賞しました

この度、第55回日本実験動物技術者協会総会にて発表した「大規模災害時における実験動物の寒天給水法の検討」という演題で、第13回実験動物福祉奨励賞を受賞しました。本演題は、災害時における動物の絶水回避や、被災した飼育スタッフの作業負担軽減を目的としたものです。短期間の寒天給水は、動物の輸送時等ですでに実用化されていますが、長期間での飼育を想定した検討は今までされていませんでした。本検討では1週間程の長期間における寒天給水法を検討・提案し、さらに、寒天に適切な濃度で塩素添加を施すことで、細菌増殖の抑制とマウスの健康維持の両立を確認することができました。

動物研究センターでは、今後も実験動物福祉と科学的合理性を両立した動物実験を支援し、センター利用者の皆さまに貢献できるよう、研究を重ねていきたいと思っています。最後に、ご指導いただいた諸先生方、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

(文責：動物研究センター 技術員 安野 航)



安野技術員、那谷動物研究センター長

### 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座で臨床研究を行った医学部4年生の水沼 茉莉花さん、山浦 千咲さんが 日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会で優秀演題発表賞を受賞しました



志賀教授、山浦さん、水沼さん

水沼茉莉花さんと山浦千咲さん(現医学部4年)が日本頭頸部外科学会から優秀演題発表として表彰されました。とても名誉なことです。二人は、研究室配属として、2021年の夏に頭頸部外科医局で舌癌について臨床研究(舌癌術後の切除範囲・再建皮弁によるQOLの差違についての検討)を行いました。研究成果は「第31回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会」での発表を目指し応募しました。本来は2022年3月3日に大阪で現地発表予定だったのですが、COVID-19の影響で現地参加ができず、Zoomを活用したweb発表でした。水沼さんが代表して「学生・研修医セッション」でPowerPointで作成したスライドを用いて澁みなくプレゼンを行いました。落ち着いた発表で内容も充実したものでしたので、司会の先生からは「研修何年目ですか?」との質問があるほど。「医学部3年生です」との答えに、会場からは驚きの声が上がっていました。(水沼さんが着用しているのが、学会から贈られた記念のスクラブです)

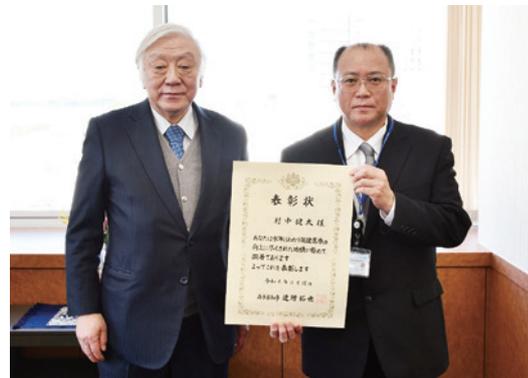
(文責：耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 教授 志賀 清人)

## 表彰の栄誉

### 中央放射線部の村中 健太 技師長が 岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました

中央放射線部の村中健太技師長は、長年にわたり本学附属病院の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和4年度の岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

村中技師長は、36年の長きにわたり診療放射線技師業務に精励し、岩手県民の保健医療に貢献されたほか、本学附属病院内の学術研究及び教育においても熱心に取り組まれました。院内外の研修会企画や講習会での指導的立場を務め、画像処理ソフト開発では特許を取得する等、保健医療の発展へ貢献した功績が認められ、表彰されました。



小川理事長、村中技師長

### 中央臨床検査部の安保 淳一 副技師長が 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労者）を受賞しました



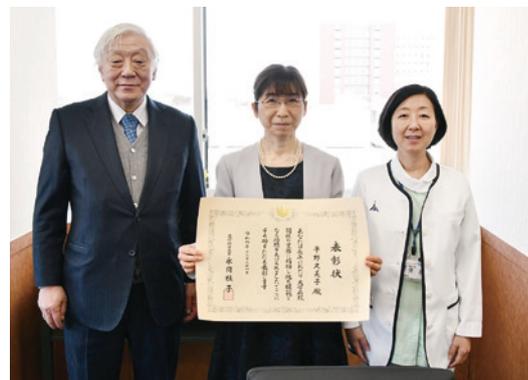
中央臨床検査部の安保淳一副技師長は、長年にわたり本学附属病院の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和4年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

安保副技師長は、病理検査を中心として日常の業務に邁進するとともに所属技師の教育、技能向上に積極的に取り組まれました。また、東日本大震災後は6年間にわたり岩手県臨床衛生検査技師会の会長を務め、被災した県内医療機関検査室の復興支援に尽力されました。38年間の長きにわたり、岩手県の保健医療の向上に貢献した功績が認められ、表彰されました。

### SCU 病棟の平野 久美子 看護師が 文部科学大臣表彰（医学教育等関係業務功労者）を受賞しました

SCU病棟の平野久美子看護師は、長年にわたり本学附属病院の業務に尽力し、その功績が顕著であったとして、令和4年度の医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣表彰を受賞しました。

平野看護師は、37年間の長きにわたり外科、消化器肝臓内科、循環器内科、産婦人科、脳神経外科、脳卒中集中治療室（SCU）で専門的知識や技術を活かし、質の高い看護ケアを提供されました。係活動では老年期ケアリンクナースや褥瘡ケアナースとして自らモデル役割を発揮するとともにスタッフへの教育も行う等、当院の医療・看護を支えた功績が認められ、表彰されました。



小川理事長、平野看護師、佐藤看護部長

## 理事会報告（11月定例－11月28日開催）

### 1. 教員の人事について

医学部内科学講座消化器内科分野 准教授

梁井 俊一（前 同分野特任准教授）

医学部内科学講座消化器内科分野 特任准教授

柿坂 啓介（前 同分野講師）

歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 特任准教授

大橋 祐生（前 同分野講師）

（発令年月日 2022年12月1日）

薬学部薬科学講座天然物化学分野 教授

田浦 太志（現 富山大学学術研究部薬学・和漢系薬用生物資源学研究室准教授）

医学部臨床検査医学講座 准教授

藤原 亨（現 東北大学病院検査部講師・副部長）

（発令年月日 2023年4月1日）

### 2. 附属病院規程及び附属内丸メディカルセンター規程の一部改正について

日本リウマチ学会より当該領域の認定施設はリウマチ科を標榜することが望ましい旨の要望を受け、附属病院診療部門及び附属内丸メディカルセンター医科診療科の膠原病内科をリウマチ・膠原病・アレルギー内科に名称変更すること、併せて附属病院においては、免疫分野の円滑な連携体制の構築を目的として、特殊診療部門のリウマチ・膠原病センターを臨床免疫センターに名称変更するとともに、構成診療科に消化器内科、小児科及び皮膚科を追加すること、附属内丸メディカルセンターにおいては、リハビリテーション科医師の常勤による増収を図るため、医科診療科に同科を追加することし、附属病院規程及び附属内丸メディカルセンター規程の一部改正することを承認した。

（施行年月日2023年1月1日）

## 理事会報告（12月定例－12月19日開催）

### 1. 教員の人事について

医学部内科学講座消化器内科分野 特任教授

黒田 英克（前 同分野特任准教授）

（発令年月日 2023年1月1日）

# 岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。  
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを含め、ここにご芳名を掲載いたします。  
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。  
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

## 学術振興資金募金

第13回目のご芳名紹介です。(令和4年10月1日～令和4年11月30日)

### ■ 法人・団体等 (5件)

<1,000,000>

株式会社 ヒノヤタクシー (岩手県盛岡市)

<50,000>

株式会社 吉田測量設計 (岩手県盛岡市)

<ご芳名のみ>

医療法人社団 鷺塚内科医院 (新潟県加茂市)

東京美装興業 株式会社 (東京都新宿区)

医療法人 大高眼科医院 (福島県須賀川市)

### ■ 個人 (18件)

<30,000,000>

黒澤 功 (医15)

<2,000,000>

林下 忠行 (医25)

<100,000>

吉田 宏樹 (父母)

中居 賢司 (医23)

<50,000>

黒川 壽久 (医56)

<ご芳名のみ>

川村 洋行 (父母)

鷺塚 隆 (父母)

岩田 千尋 (医20)

八木 孝陸 (医26)

天野 一之 (医26)

鈴木 一幸 (名誉教授)

中村 元行 (名誉教授)

内記 和歌子 (医65)

船越 正行 (父母)

石橋 寛二 (名誉教授)

杉山 晶規 (教職員)

太田 稔 (名誉教授)

黒田 啓美 (医26)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	370	183,298,220
在 学 生 ご 父 母	266	67,600,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	36	32,470,000
教 職 員	38	6,520,000
一 般	19	461,789,001
法 人 ・ 団 体	217	126,525,481
合 計	946	878,202,702

(令和2年9月1日～令和4年11月30日現在)

## 創立120周年記念事業募金

第49回目のご芳名紹介です。(令和4年10月1日～令和4年11月30日)

### ■ 個人 (2件)

<ご芳名のみ>

新井 桂 (歯14)

鈴木 一幸 (名誉教授)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,107	670,445,089
在 学 生 ご 父 母	930	543,622,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	102	124,720,000
教 職 員	270	36,372,000
一 般	146	48,785,010
法 人 ・ 団 体	404	1,274,384,000
合 計	2,959	2,698,328,099

(平成26年6月1日～令和4年11月30日現在)

### ■ 寄付者銘板の移設



この度、附属病院出入口前に設置していた「岩手医科大学創立120周年記念事業 寄付者銘板」をリニューアルの上、附属病院1階のメイン通路に移設しました。

新銘板はデザインを一新し、従来よりもお一人おひとりのご芳名を大きく掲げております。

引き続き、ご支援いただいた皆様につきましては感謝の気持ちを込めて末永く顕彰させていただきます。

## テナント紹介

矢巾・内丸キャンパスには多数の店舗が入店し、教職員、在学生、患者さん等へ様々なサービスを提供しています。身近だけど意外と知らなかった各テナントの紹介、おすすめやお得情報を掲載していきます。第3弾となる本号では、PanoPano 矢巾岩手医大店とキッチン+ギャラリー豆をご紹介します。

### PanoPano 矢巾岩手医大店 (矢巾トクタヴェール1階)

もち姫のベーグルや食パンを使ったサンドイッチを中心に約40種類をラインナップ!お得なコーヒー一杯50円! 15時以降スタッフ・学生対象に1割引になる「スタッフ・学生割」もぜひご利用ください!

患者さん、学生さん、職員の皆さんの「日々の暮らしを美味しく!楽しく!」するお手伝いができますよう頑張ります。当店のご利用を、スタッフ一同心よりお待ちしております。



#### おすすめのジェラート

風味豊かなおおのミルク村ゆめ牛乳を使用!本場イタリアで教わった本物の製法で作っています!



**営業時間** 月~土 / 10:00 ~ 18:00

### キッチン+ギャラリー豆 (矢巾トクタヴェール1階)

#### 【Kitchen】

PH調整剤不使用、家庭料理を基本としたどこか懐かしくほっとする味、心と体にやさしいお弁当を地物の食材も使用して作っています。日替わり弁当の他、特別弁当やオードブルなどのご予約も随時受付中!スタッフ・学生限定でお得なお弁当券も販売しております。皆様のご利用心からお待ちしております。

#### 【Gallery】

店内のギャラリーでは、県内在住の作家さんのハンドメイド作品や豆がセレクトしたおすすめの暮らしの雑貨をご用意しています。ラッピング無料!店内の様子はInstagramにて配信中!



特別なお弁当やオードブル等、お気軽にご相談ください。

#### 営業時間

月~金 / 11:00 ~ 17:00  
第1・4土 / 11:00 ~ 14:00



KITCHENGALLERYMAME

## お知らせ 附属病院に中庭遊歩道が整備されました

11月7日(月)、附属病院1階(患者サポートセンターとタリーズコーヒーの間)に中庭遊歩道が整備されました。患者さんや来院者さんが診療の合間にホッとできる癒しの一時を提供できるよう整備されたこの空間は、植栽が施された緑の中に3台のベンチが設置され、車いすの方でも利用できるバリアフリー施設となっています。

なお、冬期間は閉鎖いたしますので、次の開放は3月頃を予定しています。

■開園時間：9時~16時

■開放期間：3月頃~11月頃



放射線治療部門

放射線治療部門は、放射線腫瘍学科の有賀久教授をはじめ、放射線治療専門医4名、看護師6名(RI検査室と兼務)、医学物理士2名、診療放射線技師7名、メディカルアシスタント1名、医療事務2名のそれぞれ専門性を持ったスタッフで構成されています。直線加速器(リニアック)2台、アフターローディング装置1台、治療計画用CT装置を備え、年間新規治療患者数は外部放射線治療約750名、密封小線源治療約50名を実施しています。根治照射から緩和照射まで幅広い照射依頼に対応していますが、特に矢巾移転後の外部放射線治療については、正常臓器を保護しながらより治療効果を高める高精度放射線治療(強度変調照射や脳・体幹部に対する定位照射)の割合が35～40%を占めています。

技術進歩により複雑化する放射線治療ですが、患者様一人一人の症状や状態に合わせた治療を安心して受

けていただくために、スタッフ間の連携を密にし、質の高い放射線治療を提供できるよう努めてまいります。

(診療放射線副技師長 藤原 純一)



西7階C(NICU)病棟

NICUは1982年の開設から今年で40周年を迎え、県内外から早産児や超低出生体重児、先天性異常や外科疾患などを有する新生児の治療と看護を行っています。

矢巾移転後は、フロアのベッドを間仕切りした半個室の空間で家族とのパーソナルスペースを最大限に活かし、患児とご家族に寄り添った看護を行っています。コロナ禍で面会中止となった事で、いち早くオンライン面会を実施し、きょうだいと祖父母も患児の様子を伺うことができ、コロナ禍以前からのご家族の要望に応じることができました。

経管栄養や気管切開、人工肛門をもちながら、安心して在宅療養が出来るように、院内外の関連職種の方々と小児科合同カンファレンスを定期開催しています。昨年9月、医療的ケア児支援法が施行となり、私達NICU看護に期待が寄せられています。地域との緊密な連

携と切れ目のない支援で家族の思いを大切にされた看護を継続しています。

(主任看護師 金澤 加津代)



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	工藤 静子
松政 正俊	塩山 亜紀
齋野 朝幸	高橋 奈美
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木忠司
佐藤 泰生	畠山 正充
西里 真澄	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
伊藤 奈央	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

特集の「総合周産期母子医療センター」では、高リスク出産のバックアップ体制は多岐にわたり整っていてとても心強く感じました。更に、スタッフの皆さんの努力でチーム医療も充実しています。まだまだコロナ禍で気を許せない日々を過ごしていますが、不安が少しでも解消された中で出産・育児ができることは岩手にとって明るい未来の一つです。とてもありがたいことです。

これから寒さが厳しくなりますが、体調管理に十分注意し、引き続き感染症対策を徹底して乗り切りましょう。いろいろ落ち着いた春が待ち遠しいです。

(編集委員 武藤 千恵子)

岩手医科大学報 第545号

発行年月日/令和5年1月31日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/小川 彰

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111(内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



医療安全学講座 教授 肥田 圭介

## 心理的安全性

心理的安全性とは、1999年に組織行動学者であるエイミー・エドモンソン教授が提唱した概念で、「チームにおいて他のメンバーが『自分の発言を拒絶したり、罰を与えたりしない』という確信を持っている状態と定義されています。対人関係でリスクのある行動をとったとしても、メンバーが互いに安心感を共有できている状態を指し、Google社が2012年から約4年の歳月と数百万ドルの経費をかけて「成功する・生産性が高いチームの条件は何か」を調査した結果、圧倒的に重要なのが「心理的安全性」と発表し世に広く知れ渡りました。最近「心理的安全性」が各企業の人材育成や研修に活用されていることに加え、医療の分野、特に医療安全において注目されています。

心理的安全性が高いとコミュニケーション、リーダーシップなどノンテクニカルスキルの部分でチーム医療が良好・円滑に行われ、その結果として医療の質と安全性が高まると言われています。心理的安全性を高めるにはチームのメンバーがお互いに気兼ねなく共通の目標に向けて発言しあえる関係性の構築が必要です。例えば「間違ってもいいんだ」「人と違っていいんだ」といった発言をチームとして歓迎できる環境です。このようなチームを築くためにはリーダーの役割は大切ですが、互いにどのような価値観や考え方を持っているのかを把握することも大事で、それには普段の業務とは関係のない雑談等も役立つといわれています。

昨今のコロナ禍によりマスク生活を強いられ、表情から相手の感情が読み取ることが難しい状況が続いています。そのような時だからこそ、お互いに言葉を交わすことがチーム内での心理的安全性を高めるうえでもより一層重要です。SNSの普及等により同職種・多職種間の連絡が実際の会話よりもカルテ上のみでのやり取りに留まったりするなど、そばにいるスタッフへの声かけが疎かになったりしていないでしょうか。マスク越しであっても笑顔でお互いにあいさつを交わすことで心理的安全性を高めることができます。笑顔での挨拶を心掛け、心理的安全性を高め、安全で質の高い医療を提供していきましょう。



### 心理的安全性テスト

1. チームの中でミスをする、しばしば非難される。
2. チームのメンバー間で、課題や難しい問題を指摘し合える。
3. チームのメンバーから、異なる意見を拒絶されることがある。
4. チームにおいてリスクのある行動をしても安全と感じる。
5. チームの他のメンバーに助けを求めることは難しい。
6. チームメンバーは、自分の仕事を意図的に否定するようなことはない。
7. チームメンバーと仕事をするとき、自分の技術と才能が評価され、活かされていると感じる。

1. 3. 5. がNoならば1点、2. 4. 6. 7. がYesならば1点

Edmondson, A: Psychological safety and learning behavior in work teams. Administrative Science Quarterly, 1999

心理的安全性テストは職場間、職種間、時系列等での推移を比較分析する相対的評価に用いられます。